

上黒森沢

ないかと、期待をもってまずは上黒森沢へと入谷する。

一二時五〇分、遡行開始。歩きはじめるとすぐゴルジュ帯となり、滝がかかって険悪な感じとなる。まず最初は五段。斜瀑でフリクションがよくきき、直登できる。続いて四段。右岸にホルド多く、これも直登である。小滝を越えて五段二段の滝。ここは左岸をシャワーで突破する。あとは小滝となつてゴルジュ帯は終

わった。時間にして二〇分とかならなかつたが、結構楽しい所であつた。この先は荒れた平凡な沢筋が続く。土砂が至る所に押し出されてきている。途中溜沢となる部分もあり、退屈になつてきた頃、ようやく岩質が変わつて滝が出てき

た。五段滝。直登して上に出るとすぐに二俣。左俣ヘルトをとる。あとはナメと小滝の連続である。五段クラスが二本と、一〇段クラスが一本。いずれも直登して越える。もう源流帯で水量も極少となつてきて、黒森山北面に広がる伐採地へ出る。遡行終了一三時五〇分。

る部分もあり、退屈になつてきた頃、ようやく岩質が変わつて滝が出てき

「タイム」 出合(二二:五〇) ↓ 遡行

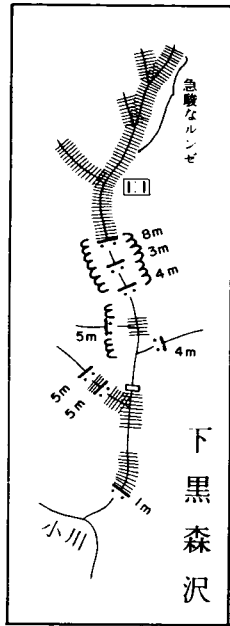
終了(一三:五〇)

下黒森沢(仮称)

一九八三年七月三〇日

黒森山東方の尾根は、北側斜面がいやに切り立っている。樹林帯でなければとても下ることができないような急傾斜である。

一四時四五分、下降を開始する。すぐ左手が急峻なルンゼとなつた。あまり急すぎてここは下れない。ひたすら樹林帯を下る。やがて右手も



ルンゼとなり、一四時五五分、左右のルンゼの合流点へと出た。

ザイルを出して懸垂下降にて沢に下る。上部に比べるといくらか傾斜はゆるくなってきたといえ、まだかなりの急傾斜である。この先も二度、右岸の樹林帯に逃げ込んで、懸垂下降にて沢に戻るといふことを繰り返す必要があった。

一五時二〇分、二侯着。左侯の方は右侯に比べると傾斜はゆるくなっているようだ。二侯のすぐ下に滝が三つ続く。最初の八折は、シャワーを浴びながらクライミングダウン。



四五分。
「タイム」 下降開始(一四:四五) ↓
下降終了(一五:四五)

あとの二つはそれほど苦勞することなく下れた。あとは困難な所もないまま小川本流へ出る。一五時

(記)

山で出会った動物たち③
ツキノワグマ
長年沢登りを続けていると、思いがけなく大接近することがある。私はこれまで3度の大接近を経験している。一度は那須白水沢、一度は吾妻不動沢、そしてもう一度がこの摺上川流域大沢(五四頁参照)である。▼そのうち吾妻の時間が一番の大接近。なにしろ背中をドンと突き飛ばされたほどだから。真相は、クマが樹林帯から飛び出してきた所にたまたま私がいたということ。画鋲の先でついた程度の傷ができただけで、別にケガもなし。今になれば、沢登りの一つのエピソードとなっている。(西)